

ノナリ

又責任トハ他ナシ前條ノ如ク注文者カ其受取ヲ取消シテ爲ス所ノ代價ノ減殺又ハ其一分ノ返還ノ請求ニ應ス可キヲ謂フナリ

然リ而シテ此責任タル一定ノ期間ニ從フヲ要シ妄リニ永久ニ繼續ス可カラス乃チ法律ハ其各場合ニ因リ之レカ期間ヲ定メタルナリ

第一 牆壁其他土工ニ付テハ其受取後二年年〇土工トハ土ヲ以テ主タル材料ト爲セル工事ヲ云ヒ牆壁其他堤防土手又ハ均地等ヲモ云フ石瓦等ノ材料ヲ以テスル場合モ亦之ニ之ニ包含スルモノトス

第二 木造ノ建物ニ付テハ三年年〇是レ家屋其他ノ建物ヲ云フ固ヨリ土石又ハ瓦等ノ材料ヲ要スルモ此場合ハ木ヲ以テ其主タル材料ト爲ス場合ヲ云フモノナリ

第三 石又ハ煉瓦ノ建物及ヒ土藏ニ付テハ十年年〇土藏ハ其材料ヨ

リ云ヘハ土ヲ重要ノモノトシ其工事ノ性質ヨリ云ヘハ一ノ建物ニシテ家屋ナリト雖モ其特ニ堅牢ニスルノ點ヨリシテ之ヲ石又ハ煉瓦ノ建物ト同視シ本號ニ列シタルナリ

右ハ二年年ト云ヒ三年年ト云ヒ又ハ十年年ト云フモ其工作物ノ性質ヨリ云ヘハ甚タ短縮ニ過クルモノ、如シ然レハ是レ此期間ノミ責ニ任セシムトノ意ニ非スシテ此期間ニ滅失又ハ損壞ヲ生スルコトナケルハ最早其瑕疵ノ爲メニスル滅失又ハ損壞ハ生セサル可キモノト看做シ此期間アレハ以テ足レリト思惟シタルモノナリ若シ夫レ否ラスシテ永久ニ其責ニ任ス可シトセハ請負人ハ永久ニ既往ノ工作ヲ顧慮セサル可カラス其迷惑豈尠ナランヤ

第二百八十條 右ノ責任ニ基キタル賠償訴權ハ左ノ時期ヲ以テ時効ニ罹ル

第一 物ノ全部ノ滅失ノ場合ニ於テハ其滅失ノ時ヨリ一今年

第二 物ノ一分ノ滅失又ハ重大ノ毀損ノ場合ニ於テハ請負人ノ責ニ任ス可キ期間ノ滿了ノ時ヨリ六個月

〔義解〕(二三二) 本條ハ前條賠償訴權ノ時効ヲ規定シタルモノナリ本條ハ前條ト相對スル關係ニ於テ一見甚タ奇異ナル看ナシトセス然レトモ前條ハ請負人ノ責任ヲ負フ期間ヲ定メ本條ハ其期間ニ責任ノ生シタルトキニ其責任ニ基キタル賠償訴權ノ時効期間ヲ定メタルモノナリ故ニ本條ノ期間ト前條ノ期間トハ相重複スルニ非ス即チ相追フテ二段ヲ爲スモノナリ彼ノ牆壁ニ付テ之ヲ云ハシニ牆壁ハ受取後二今年間無異ノ景狀ニテ存留セサル可カラズ若シ否ラスシテ滅失又

ハ損壞ヲ來タシ其滅失又ハ損壞カ右二今年以内ニ在リシトキハ請負人ニ賠償ノ責任アリテ注文者ニ賠償ヲ請求スルノ訴權アリ(前條)而シテ此訴權ハ本條ノ期間ヲ以テ時効ニ罹ルト云フニ在ルナリ然ラハ則チ工作物ニ付テ假令滅失損壞ノ事アルモ其事前條ノ期間内ニ在ラザリセハ請負人ハ最早其責ナク之ニ反シテ若シ其期間内ニ在リシトキハ則チ其責任アリテ注文者ハ之ニ基キ以テ賠償訴權ヲ有スルモノトス然レトモ其訴權ハ物ノ全部ノ滅失ノ場合ト一分ノ滅失又ハ重大ノ損壞ノ場合トニ因リテ其時効ノ期間ヲ異ニシ而シテ前ノ場合ハ一今年ニシテ其起算點ヲ滅失ノ時トシ後ノ場合ハ六個月ニシテ其起算點ヲ請負人ノ責ニ任ス可キ期間即チ前條期間ノ滿了ノ時ト爲セリ

故ニ牆壁ニ付テハ其受取後一今年ニ滅失又ハ損壞アリトスレハ其滅

失カ物ノ全部ナルニ於テハ時効ハ受取ノ時ヨリ通算シテ二個年タリ
其一分ノ滅失又ハ重大ナル損壞ナルニ於テハ時効ハ通算シテ二年六
个月タル可ク後者ハ則チ前者ヨリ長シ然レモ若シ其滅失又ハ損壞カ
受取後一年十个月ニ生シタリトセハ前者ハ通算二年十个月ニシテ後
者ハ通算二年六个月タリ後者ハ前者ヨリ短シ蓋シ後者ハ時効ノ期間
常ニ受取ノ時ヨリ二年六个月ニシテ滿了スルモ前者ハ長短常ニ一定
セサルモノタルナリ

抑本條カ物ノ全部ノ滅失ノ場合ト一分ノ滅失又ハ損壞ノ場合トヲ區
別シ其時効期間ノ長短ト起算點トヲ異ニシタルハ何ソヤ他ナシ全部
ノ滅失セルモハ其事詳明ニシテ且爾後更ニ滅失スルコトナキヲ以テ
直チニ其時ニ於テ訴ヘ得ヘク隨テ其時ヨリ起算シテ可ナルモ一分ノ
滅失又ハ損壞ハ之ニ異ナリ一分ノ滅失アルモ又再ヒ他ノ部分ノ滅失

スル恐アル場合ノ如キ直チニ之ヲ訴ヘ其事終局スレハ又第二ノ滅失
ニ因リ再度ノ訴ヲ爲ス等ノ煩アリ之ヲ避ケンカ爲メ其訴ヲ急速ニセ
サルコトナシトセス即チ請負人ノ責任ノ繼續スル間ハ其滅失又ハ損
壞ノ相踵テ生センコトヲ恐レ爲メニ其期間ノ滿了スルマテ起訴セサル
コトアル可シ故ニ此等ノ事情ヲ慮カリ起算點ヲ其期間滿了ノ時トセシ
ナリ而シテ起算點ニ於テ既ニ此ノ如ク後者ハ前者ヨリ寛ナルニ因リ
其期間モ後者ハ前者ヨリ短クスルヲ以テ實際上兩者ノ均衡ヲ得ルモ
ノトス是レ此差異アル所以ナリ

第二百八十一條 經畫ノ變更ヨリ代價ノ増減ヲ生ス

可キモ書面ヲ以テ之ヲ定メサルトキハ其變更ヲ口
實トシテ請負人ハ原代價ノ増加ヲ請求シ注文者ハ
其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

請負中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ爲シ又ハ請負中ノ區分アル建築ヲ廢セシトキハ此規定ヲ適用セス此場合ニ於テ當事者ノ間ニ一致ヲ得サルトキハ裁判所原代價ノ増減ヲ定ム

請負人ハ經畫又ハ其變更カ注文者ノ指圖ニ出テタルコトヲ口實トシテ第二百七十九條ニ定メタル責任ヲ免カルルコトヲ得ス但請負人カ書面ヲ以テ此責任ヲ免カルルコトヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

〔義解〕(二三三) 本條ハ仕事ノ經畫ノ變更ニ關スル雙方ノ權利義務ヲ定メタルモノナリ

或ル仕事ヲ爲スニ半途ニシテ當初ノ經畫ヲ變更スルコトアリ例ヘハ工事ノ區域ヲ伸縮シ材料ヲ左右シ方法又ハ仕様ヲ變更スル等ノ事ア

リ此場合ハ多少其代價ニ影響ヲ及ホシ増減ヲ來タスコト少カラス而シテ請負人カ之ヲ口實トシテ原代價ノ増加ヲ請求シ又ハ注文者カ其減少ヲ請求スルコトアリテ動モスレハ輒チ爭訟ヲ生シ易シ而シテ此爭訟タル果シテ經畫ノ變更アリシヤ其變更ハ如何又果シテ代價ノ増減アリシヤ其増減ハ若干ナリヤ等ノ問題アリテ甚ダ困難ナル爭訟タル可シ故ニ實際經畫ノ變更アリ且代價ニ増減ヲ生セシニ於テハ其増減ノ請求ヲ許サ、ルニ非サルモ本條ハ其金額ノ如何ニ拘ハラス此カ爲メニハ書面ノ證據ヲ要スルト爲シ豫メ之ヲ定メタル書面アルニ非サレハ其請求ヲ許容セス是レ其爭訟ノ困難ヲ避ケ且些少ノ變更増減ノ爲メ妄リニ爭訟ヲ爲スノ弊ヲ杜カントスルニ在ルナリ然レモ請負中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ爲シ又ハ請負中ノ區分アル建築ヲ廢セシトキ例ヘハ五室アル家屋ヲ建築スルノ請負

ニ之ヲ六室トシ又ハ四室トスルカ如キ三棟ノ家屋ノ建築ヲ四棟又ハ二棟トスルカ如キ場合ハ其事明著ナルヲ以テ前ノ規定ヲ適用セス即チ書面ヲ要スルコトナクシテ人證ヲ以テスルモ亦之ヲ許ス可ク又五十間ノ延長アル牆壁ヲ築造スル請負ニシテ之ヲ七十間トシ若クハ三十間トセルカ如キモ亦本項ニ包含ス可キモノトス此場合ニ其代價ノ増減額ニ付キ當事者ノ一致セザルトキハ裁判所ハ之ヲ査定スルノ權アルナリ

〔二三四〕 經畫又ハ其變更カ注文者ノ指圖ニ出テ請負人ハ之ニ服從シテ工事ヲ爲セシ場合ニ於テモ請負人ハ其機ニ臨ミ變ニ應シ以テ其工事ノ堅牢ヲ謀ラサル可カラス是レ工事ヲ爲ス者ノ自然ノ責務ナリ故ニ請負人ハ經畫又ハ其變更カ注文者ノ指圖ニ出テ自己ノ隨意ナラザリシコトヲ口實トシテ第二百七十九條ノ責任即チ滅失又ハ損壞ニ關ス

ル責任ヲ免ル、コトヲ得サルナリ然レモ時トシテハ一々注文者ヨリ指圖セラレ請負人ハ其滅失又ハ損壞ヲ來タスノ恐アルコトヲ知リツ、仕事ヲ爲スコトアリ此等ノ場合ハ右ノ責任ヲ免レシメサル可カラサルカ故豫メ書面ヲ以テ之ヲ免ル、コトヲ定メアルトキハ法律ハ之ヲ認許シ第二百七十九條ノ適用ヲ免スルモノトス

第二百八十二條 請負人カ仕事ノミヲ供スルト材料ヲ併セ供スルトヲ問ハス注文者ハ常ニ自己ノ意思ノミヲ以テ契約ヲ解除スルコトヲ得然レトモ注文者ハ請負人ノ既成ノ仕事ノ賃銀及ヒ準備ノ材料ニ受ケタル損失其他損害ヲ賠償シ且其契約ニ因リテ得ヘキ正當ナル利益ノ全部ヲ辨濟スル義務ヲ負擔

〔義解〕(二三五) 本條ハ請負契約ノ解除ノ事ヲ定メタルモノナリ
 凡ソ契約ハ一方ノ隨意ニ之ヲ解除スルコトヲ得サルヲ原則トス然レモ
 亦タ往々ニシテ此例外タルモノアリ仕事請負契約ノ如キ即チ其一ニ
 列セラル蓋シ注文者ハ半途ニシテ無用ト爲リ若シクハ好マサル所ト
 爲ルニ至リ又ハ其賃銀ヲ支拂フ能ハサル狀況ニ陥リタラシニ尙ホ其
 仕事ヲ強テ爲サシメサル可カラスト云フハ甚々非理ニ屬スルカ故此
 契約ハ注文者ノ隨意ニ之ヲ解除スルコトヲ得ルモノト爲シタルナリ
 然レモ不當ニ利益ヲ得ヘカラス又不正ニ損害ヲ加フ可カラサルハ法
 律上自明ノ原則ナリ故ニ注文者カ契約ヲ解除セシニ於テハ請負人カ
 其時マテニ既ニ成就シタル仕事ノ賃銀ヲ拂ヒ準備ノ材料ニ受ケタル
 損失其他總テノ損害ヲ賠償シ且注文者カ受取リタル既成ノ仕事其他

該契約ニ因リテ得ヘキ正當ナル利益ノ全部ヲ辨濟セサル可カラス此
 辨濟ノ義務ヲ負フヤ則チ解除ノ權利ヲ有スルナリ
 然リ而シテ此解除ノ權利タル請負人カ仕事ノミヲ供スル場合ト材料
 ヲ併セ供スル場合トヲ問ハサルモノトス元來材料ヲ併セ供スル場合
 ハ條件附ノ賣買ニシテ而シテ賣買契約ハ一方ノ隨意ニ解除シ得サル
 モノナリ然ルニ尙ホ此場合ニ解除ヲ得セシムルハ苟モ右ノ如ク總テ
 ノ請負人ノ損害ヲ賠償セシムルニ於テハ解除ノ爲メニ請負人ヲ害ス
 ルコトナシ既ニ請負人ヲ害スルコトナクハ之ニ解除ヲ得セシメ以テ注
 文者ニ迷惑ト爲リタル仕事ノ注文ヲ廢セシムルモ亦タ必スシモ不可
 ナラサレハナリ

第二百八十三條 他人ノ材料ヲ以テ仕事ノ全部ニ供
 シタルト一分ニ供シタルト又其仕事ヲ實行シタル

ト契約ヲ解除シタルトテ問ハス請負人ハ仕事ノ爲
メ又ハ解除ノ賠償ノ爲メ自己ノ受ク可キ金額ノ皆
濟ニ至ルマテ其材料ヲ留置スルコトヲ得但此留置
權ハ動産物ノミニ之ヲ適用ス

〔義解〕(二三六) 本條ハ請負人カ留置權ヲ有スルコトヲ示シタルモノ
ナリ

請負人カ其請負ヒシ仕事ヲ實行シタルトキハ固ヨリ之レカ賃銀ヲ受
クルノ權アリ又未タ其實行ニ至ラス若クハ實行ヲ終ラサル場合ニ注
文者ヨリ契約ヲ解除セラル、モ尙ホ前條ニ依リ種々ノ賠償金等ヲ受
クルノ權アリ即チ總テノ場合ニ於テ請負人ハ注文者ヨリ或ル金額ヲ
受ク可キコト多カル可シ故ニ此場合ニ於テハ請負人ハ其權利ニ付キ
擔保ノ方法ヲ有スルニ非サレハ權利ノ實益ヲ收メ難キコトアラノ是

ニ於テ乎其他人ヨリ供セラレタル材料ノ上ニ留置權ヲ行フヲ得セ
シメリ

蓋シ請負人ノ此債權タルヤ其占有シタル物即チ供セラレタル材料ヨ
リ生セシ損害賠償ニ因リテ生シ又ハ其占有ニ牽連シテ生シタルモノ
ナレハ請負人カ其物ニ付キ留置權ヲ有スルハ留置權ノ原則上債權擔保編第
九十條ヨリ然ル所ニシテ而シテ其材料カ仕事ノ全部ニ供セラレ又ハ
其一分ニ供セラレタル如キ固ヨリ其問フ所ニ非サルハ多言ヲ費サス
シテ明カナリ

然レトモ本條カ留置權ノ原則ニ反シ之ヲ動産物ニノミ適用シテ不動
産ヲ留置スルコトヲ許サ、ルハ何ソヤ蓋シ一見スレハ其原則ニ背クカ
如シト雖モ亦タ以テ之ニ適合セルモノアルナリ夫レ留置權ナルモノ
ハ債權ト至密ノ關係アルコトヲ必要トスルノミナラス債權者カ現ニ

其物ヲ占有シ居リタルコトヲ必要トス然ルニ仕事請負ノ契約ニ於ケルヤ凡テ不動産ニ付テハ請負人カ眞ニ之ヲ占有セリト云フヲ得ス即チ動産物ハ眞ニ仕事ノ材料トシテ之ヲ占有シ得ヘキモ不動産ニ至リテハ其實際ノ場合ヲ想像スルニ之ヲ仕事ノ材料ト云フ可カラズ唯或ル不動産ノ上ニ若クハ不動産ニ付テ一ノ仕事ヲ爲スニ過キサレハ決シテ之ヲ請負人カ占有シ居タリト云フヲ得ス既ニ之ヲ占有シタルニ非ストスレハ之ニ付テ留置權ヲ行フヲ得サルハ亦タ留置權ノ原則上固ヨリ然ル可キ所ニシテ深ク恠シムニ足ラス殊ニ工事請負人ハ其工事ヲ爲セシ不動産ニ付キ先取特權ヲ有スルヲ以テ債權擔保編 第四百七十四條留置權ナシト雖モ實際ニ於テハ亦タ不安ヲ感スルコトナカル可キナリ

第二百八十四條 注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ主眼

トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ其契約ハ請負人ノ死亡又ハ其仕事ノ不能ニ因リテ之ヲ解除スルコトヲ得

右二箇ノ場合ニ於テ注文者ハ自己ノ期望セシ目途ニ付キ利シタル仕事又ハ材料ノ價額ノミヲ請負人又ハ其相續人ニ辨濟スル責ニ任ス

〔義解〕(二三七) 第二百八十二條ニ於テハ注文者ノ隨意ニ契約ヲ解除シ得ヘキコトヲ規定セシカ本條ハ之ニ反シテ請負人ヨリスル原因ニ由リ契約ノ解除セラル、コトヲ規定セリ
注文者ハ自己ノ隨意ニ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシト雖モ然レモ請負人ハ一般ノ原則ニ從ヒ自己ノ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得ス唯、此契約タル請負人ハ爲スノ義務ヲ供スルモノニシテ爲スノ義務ハ強テ之ヲ

履行セシムルヲ得サルノ原則ヨリシテ請負人ハ之ヲ履行セサルモ注文者ヨリ強制セラル、トナシ然リト雖モ此場合ハ巨額ノ損害賠償ヲ注文者ニ辨償セサル可カラサルナリ

然ルニ本條ハ其例外トシテ注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ主眼トシテ契約ヲ取結ヒタルモ限リ二個ノ場合ニ付テ解除スルヲ得ルモノト爲セリ即チ請負人其者ノ仕事ニ篤實ナルト又ハ伎倆ノ優巧ナルコト等ヲ主眼トシ特ニ其者ト契約セルモノナルモハ其者ノ死亡セル場合及ヒ其仕事ノ不能ト爲リシ場合(例ハ其篤疾ノ如キ又ハ營業ノ禁止ノ如キ)ニ於テハ之ヲ解除スルヲ得ヘシ是レ契約ノ主眼其人物ノ上ニ存スルニ因リ他人ヲシテ之ヲ代理セシムル能ハサルヲ以テ然ルナリ

然リ而シテ右ノ場合ノ如キ其解除ノ時既ニ多少ノ仕事ヲ成就シ居リテ注文者カ自己ノ期望シタル目途ニ付キ多少ノ利益ヲ得ヘキモハ其利益シタル仕事又ハ利益シタル材料ノ現實ノ價額ノミヲ請負人(死亡ノ場合ニハ其相續人)ニ辨償セサル可カラス但注文者ノ責タル此ノ如キニ止マルヲ以テ其準備ニ止マリ未ダ成功ニ至ラサル仕事又ハ材料ノ價額ハ之ヲ辨償セスシテ可ナリ而シテ請負人ハ之ニ應當スル損失ヲ負擔セサル可カラス蓋シ此解除ハ請負人ニ責ム可キノ過失アルニ非スト雖モ契約ノ性質上請負人ハ其損失ノ負擔ヲ免カル可カラサルモノナレハナリ

第二百八十五條 仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト

請負人トノ關係ニ付テハ上ノ規定ニ從フ

請負人カ下請負人ニ對シ負擔スル金額ヲ辨償セサルトキハ下請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ注文者

ニ對シ其注文者ノ猶ホ請負人ニ辨濟ス可キ債務ノ
限度ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

職工モ亦已レテ雇ヒタル者カ賃銀ヲ辨濟セサルト

キハ注文者ニ對シテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

〔義解〕(三三八) 本條ハ下請負人及ヒ職工ノ權利ヲ規定シタルモノナ

リ

凡ソ請負仕事ニ於テハ一ノ請負人ヲ以テ其仕事ヲ完成シ得ルモノニ

非ス必スヤ多クノ職工ヲ使役シ且時トシテハ下請負ヲ爲サシムルヲ

モ亦タ勘シトセス例ヘハ一ノ家屋建築ヲ請負ヒシ者カ工匠ナルキハ

其牆壁ニ付テハ圻工ヲ以テ下請負人ト爲シ其屋蓋ニ付テハ瓦工ヲ以

テ下請負人ト爲スカ如キ是ナリ

此仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト請負人トノ關係ハ猶ホ請負人ト

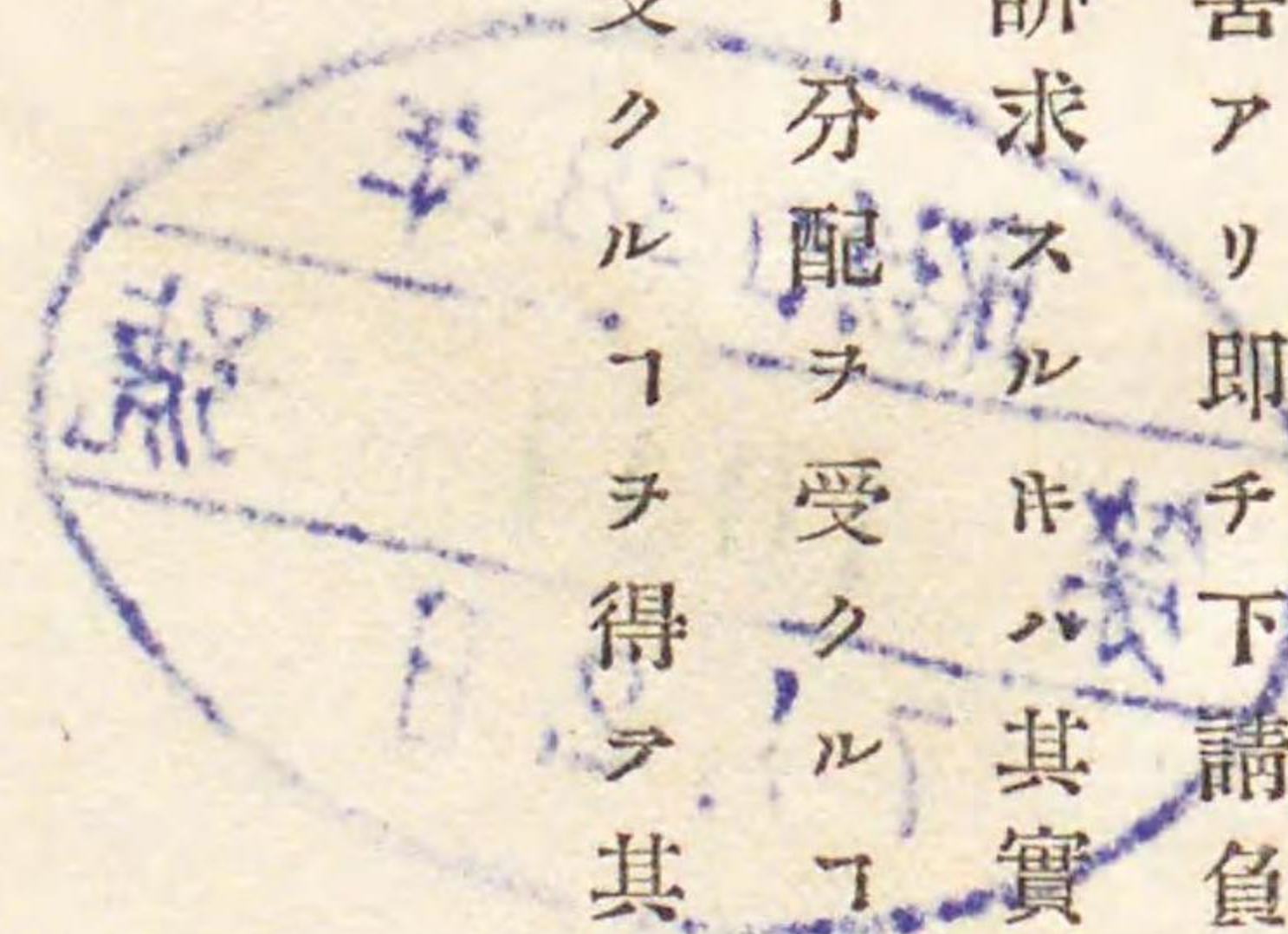
注文者トノ關係ノ如シ故ニ下請負人カ仕事ヲノミ爲シテ其主タル材
料ヲ請負人ヨリ供スルトキノ如キハ則チ請負人ニ對スル仕事請負契
約ナリ又其主タル材料ヲ下請負人カ併セテ供スルキハ則チ請負人ニ
對スル仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買ナリ故ニ其關係ハ總テ以上ノ規
定ニ從フモノトス

然ラハ則チ請負人カ下請負人ニ對シテ負擔スル賃銀又ハ材料ノ價額
又ハ其解除ト爲リタル場合ノ損害賠償等ノ金額ヲ辨濟セサルヤ原則
上ニ於テハ下請負人ハ之ヲ請負人ニ訴求シ請負人ハ之ヲ注文者ニ訴
求スルヲ順序トシ而シテ下請負人カ之ヲ注文者ニ訴求スルニハ請負
人ノ名義ヲ以テセサル可カラサルカ如シ然ルニ本條ヲ以テ此原則ニ
反シ下請負人ニ許與スルニ注文者ニ對スル直接訴權ヲ以テセリ即チ
下請負人ハ自己ノ名義ヲ以テ直接ニ注文者ニ對シ其注文者ノ猶ホ請

負人ニ辨濟ス可キ債務ノ限度ニ於テ訴求スルヲ得セシメリ故ニ例
 へハ下請負人カ請負人ニ對シテ三百圓ノ債權アリ而シテ注文者ハ請
 負人ニ對シテ千圓ノ債務中既ニ八百圓ヲ辨濟シ猶ホ二百圓ヲ殘シタ
 リトセンニ下請負人ハ注文者ニ對シテ二百圓ヲ訴求スルニ止マリ其全
 額ヲ訴求スルヲ得ス是レ已ムヲ得サル所ニシテ其直接訴權ヲ得シ
 〓既ニ法律ノ回護ニ出テシモノナレハ此ノ如キハ下請負人タル者固
 ヲリ之ヲ甘ンセサルヲ得サルナリ

職工カ己レヲ雇ヒタル者ニ對シテ有スル債權即チ賃銀ニ付テモ亦タ
 此例ニ從ヒ注文者ニ對シテ直接ニ訴求スルヲ得ヘシ是レ管ニ請負
 人ノ雇ヒタル職工ノミナラス下請負人ノ雇ヒタル職工モ亦タ然リト
 ス此後ノ場合ニ於テハ其職工ト注文者トノ間ニハ下請負人ト請負人
 トノ二者ヲ隔ツト雖モ理ハ則チ異ナルヲナシ

蓋シ此訴權ノ直接ナルト間接ナルトハ管々實際ノ手續ニ繁簡遲速ノ
 差アルニ止マラス現實上大ニ利害アリ即チ下請負人又ハ職工カ注文
 者ニ對シ自己ノ名義ニテ直接ニ訴求スルハ其實際直接ノ債務者タ
 ル請負人又ハ下請負人ノ債權者ト分配ヲ受クルヲ免カレ直チニ其
 注文者ノ債權者ト平等ノ分配ヲ受クルヲ得テ其實益決シテ尠少ナ
 ラサルナリ



民法正義財産取得編卷之貳 畢

40
4

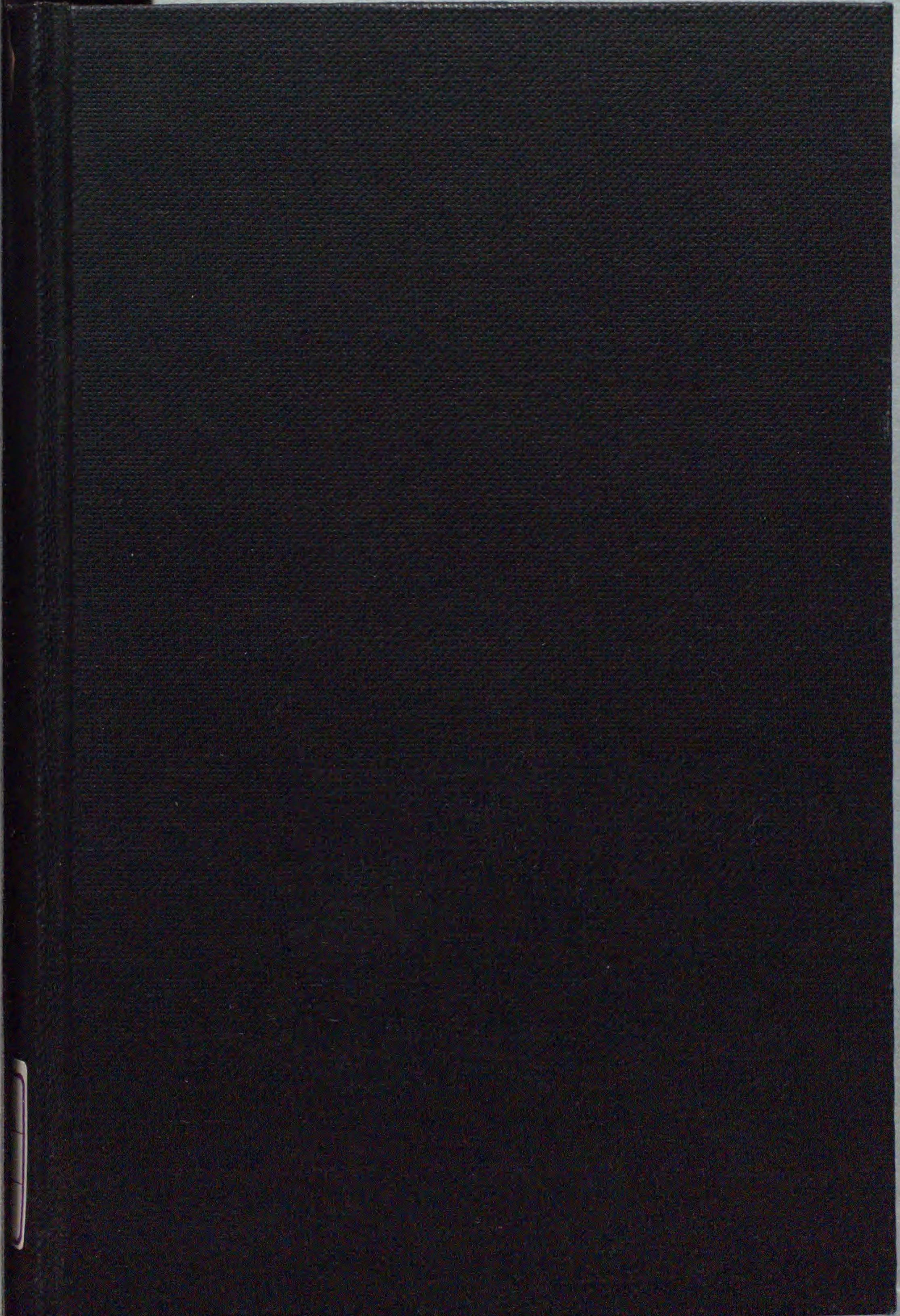
昭和38年
第 1041 號
7月2日

W324.0/
M147
1401

最高裁判所図書館



000126016



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black

Kodak Gray Scale

C **Y** **M**

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A	1	2	3	4	5	6	M	8	9	10	11	12	13	14	15	B	17	18	19